

「2010関西友の会 in 奈良」 報告書

平成 22 年 6 月 21 日(月)

SCADA 春の風物詩である「関西友の会」が数年の熟成期間を経て開催された。
今年度は「平城京遷都 1300 年」という節目の年であるため、開催場所は奈良とした。
平成 22 年 5 月 29 日(土):「中島歯科医院」見学会の後、宴会。
平成 22 年 5 月 30 日(日):平城京史跡巡り。

参加者の面々は以下の通り (部分参加含む)

奥村御大、石田女史、足立氏、井戸垣氏、加藤氏、金剛氏、善入氏、中島氏、中富氏、岸本

自己紹介なんてものはもはや不要！？という程に熱い議論が交わされた奈良市内の某居酒屋。
歯科の話題はもとより芸術、文化、各人の趣味に至るまで話題の内容は多岐にわたったにもかかわらず、静寂な時間は「食べているときだけ」だったのは、参加者各人の探求熱心な姿勢のせいかも知れない。



毎度のことであるが、2 日目の行程は中富氏の一存で決まることが多い。
今回も中富チョイスにより素晴らしい歴史散策をさせていただいた。阿修羅像で知名度急上昇中の興福寺、氷室神社や春日大社、影向之松（能の舞台背景に描写されている松はコレとのこと）など、訪れる場所場所での氏の説明もまた素晴らしく、氏の造詣の深さには感服しきりである。

まさにこれからの SCADA の繁栄を賛美するかの如く、終始好天に恵まれた。
散会時には皆、赤ら顔をしていたが、これは単に日焼けの為のみならず、熱き思いを語り明かし興奮冷めやらぬところもあったのであろう。決して御天道様の高いうちから浴びるように酒を飲み明かしたのではないことだけは確かなようなので、注釈として加えておく。

次年度以降も開催されると思われる「関西友の会」

旧知の面々と飲み明かす酒も旨いが、若き面々との語らいも楽しみの一つであるので、次回開催の際には皆様、万障お繰り合わせの上、奮っての御参加宜しくお願い致します。

文責：岸本知弘